

ドイツ語（初級 A） 第 5 回 定動詞の位置（1）、動詞の現在人称変化（2）

範囲：教科書 S. 14-16（CD トラック 14-17）

《今回の基本例文》

10. Frau Bauer nimmt den Urlaub und fährt nach Italien. (CD17-9)

バウアーさんは休暇を取得し、イタリアに行く。

[幹母音が a→ä に変音する動詞、幹母音が e→i に変音する動詞、(前置詞)]

11. Petra spricht sehr gut Japanisch. (CD17-2)

ペトラは非常に上手に日本語を話す。

[幹母音が e→i に変音する動詞、(形容詞の副詞用法)]

12. Er sieht die Ampel nicht. (CD17-4)

彼は信号を見ていない。

[幹母音が e→ie に変音する動詞]

教科書第 2 課 B. 定動詞の位置（1） (S. 14)

〈ドイツ語の単文の語順について〉 (補足)

◇ これまで出てきた文は英語と似た SVO 型のものだけだったが、本来のドイツ語の語順の考え方は英語と大きく異なる。ここでは、基本的な単文の語順について学ぶ。

◇ ドイツ語の文における定動詞の位置は各要素のうち第 2 番目と決まっている (定動詞第 2 位の原則)。ただし、決定疑問文の場合のみ定動詞第 1 位となる。

* 定動詞第 2 位の原則は主文の場合であり、副文では異なる。 (⇒教科書第 8 課)

◇ 平叙文は、定動詞第 2 位の原則に従って文をつくる。

(例) 彼は今晚、家でドイツ語を学ぶ。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下
Er	<u>lernt</u>	heute abend zu Hause <u>Deutsch</u> .
<u>Deutsch</u>	<u>lernt</u>	er heute abend zu Hause.
Zu Hause	<u>lernt</u>	er heute abend <u>Deutsch</u> .
Heute Abend	<u>lernt</u>	er zu Hause <u>Deutsch</u> .

・上記の例文は、いずれも er (主語)、lernt (定動詞)、Deutsch (4 格目的語)、heute abend (副詞 1)、zu Hause (副詞 2) という 5 つの要素からなっており、定動詞の lernt は必ず第 2 番目に置かれているのがわかる。

・それ以外の要素については英語と異なってどこに置いても構わないが (ただし、主語は第 1 番目でない場合は定動詞のすぐあとの第 3 番目のことが多い)、まず強調したい要素を第 1 番目とし、それ以外で定動詞と結びつきの強い要素 (4 格目的語など) を最後に置

くのが普通である。ゆえに、この 4 文は、それぞれ力点のあり方が異なっている。

・教科書第 1 課で学んだ不定詞句から上記の文を考えると、**heute abend zu Hause Deutsch lernen** (今晚、家でドイツ語を学ぶ) が不定詞句になるので、その最後にある動詞の不定詞を定動詞として 2 番目の位置に持って来ることになる。そして、文頭に来る要素以外は語順が変わらないので、以下のように文をつくる。

heute Abend zu Hause Deutsch lernt

← ← ← ← ← ← ← ←

Er lernt heute Abend zu Hause Deutsch.

Heute Abend lernt er zu Hause Deutsch

...

4 格目的語が最後に来ることについては、このように不定詞句からも説明できる。

・定動詞と結びつきの強い要素を定動詞から最も離れた文末に置くのは、ドイツ語の基本的な考え方である (**枠構造**)。

◇ **補足疑問文**も、定動詞第 2 位の原則に従って文をつくり、疑問詞は第 1 番目に置く。

(例) Wer lernt heute abend zu Hause Deutsch?

Was lernt er heute abend zu Hause?

Wo lernt er heute abend Deutsch?

Wann lernt er zu Hause Deutsch?

定動詞と結びつきの強い要素を最後に置くのは平叙文のときと同じ。ほかに、**wer** の 2 格、3 格、4 格も疑問詞として使用できる。 (⇒教科書 S. 13、授業第 4 回配付資料 1 の S. 3)

◇ **決定疑問文**は、定動詞を 1 番目に置き (定動詞第 1 位)、主語はその次に置く。 英語と異なり、**do** や **does** に類する助動詞を用いる必要はない。

(例) „Lernt er heute abend zu Hause Deutsch?“

- „Ja, er lernt heute abend zu Hause Deutsch.“

- „Nein, er lernt heute abend zu Hause Französisch.“

- „Nein, morgen früh lernt er zu Hause Deutsch.“

- „Nein, in einem Café lernt er heute abend Deutsch.“

定動詞と結びつきの強い要素を最後に置くのは平叙文のときと同じ。

補足練習問題

指示に従って文を書き換えよ。

1. Ich lerne Deutsch. (Deutsch を文頭に)

2. Ich bin Studentin. (Studentin を文頭に)

3. Peter wohnt jetzt in Berlin. (jetzt を文頭に)

4. Peter wohnt jetzt in Berlin. (in Berlin を文頭に)

-
5. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (決定疑問文に)
* zwei Stunden (2 時間) は副詞的 4 格。
6. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (Hanna を問う補足疑問文に)
7. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (heute を問う補足疑問文に)
8. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (Klavier を問う補足疑問文に)
9. Das ist der Tisch des Lehrers. (wem と gehören で des Lehrers を問う疑問文に)
10. Das ist das Haus einer Ärztin. (wem と gehören で einer Ärztin を問う疑問文に)
.....

教科書第 3 課 A. 動詞の現在人称変化 (2) (S. 15-16、CD トラック 14-17)

〈やや特殊な現在人称変化をする動詞について〉 (補足)

- ◇ sein, haben, werden (⇒教科書第 1 課 3、授業第 3 回) 以外でも、不規則な現在人称変化をする動詞がある。ここでは、**幹母音** (語幹の母音) が変わるタイプの変化形を覚えよう。
- ◇ 二人称単数 (du) と三人称単数 (er) のみ不規則なかたちが現れるので、この 2 個所にだけ注目すればよい。
- ◇ これらの不規則な現在人称変化は、教科書巻末の不規則変化動詞表のほか、辞書を引いても確認できる (辞書の巻末にも不規則変化動詞表があるのが普通)。

教科書 1 a→ä 型 (幹母音 a がウムラウトして ä に変わるもの)

- ◇ 注意が必要なのは laufen のように幹母音が二重母音 au であるパターン。変音後は äu となるので、発音は教科書 S. 6 で学んだ規則に従って[lɔʏ]としなければならない。だから、不定詞 laufen[laufen]、ich laufe[laufe]に対して、du läufst[lɔʏfst]や er läuft[lɔʏft]となる。
- ◇ **halten** (vt. 保つ/つかんでいる) については、以下の変化表となる。

	halten
ich	halte
du	hältst
er	hält
wir	halten
ihr	haltet
sie	halten

教科書 Übung 1 (S. 15、CD トラック 14)

1~6. nach は前置詞 (⇒教科書第 5 課) で、移動先が地名 (固有名詞) であるとき用いる。

教科書 Übung 3 (S. 16、CD トラック 16)

5. Mädchen (女の子) は、生物学上の性は女性だが、-chen の語尾がつくと中性というルール (⇒授業第 4 回配付資料 2 「名詞の性別の見分け方」 S. 3) が優先して中性名詞となる。

教科書 2 e→i および e→ie 型 (幹母音 e が i もしくは ie に変わるもの)

- ◇ 原則として幹母音 e が短母音[e]なら i[i]に、長母音[e:]なら ie[i:]に変化する。
- ◇ **geben** (vt. 与える) の場合、幹母音が長母音[e:]であるにもかかわらず i が現れる。ただし、発音は長母音[i:]で読む。

	geben
ich	gebe
du	gibst [gi:pst]
er	gibt [gi:pt]
wir	geben
ihr	gebt
sie	geben

- ◇ 「幹母音の変化につれて、他の綴りにも変動のあるもの」については、前述の **halten** や **nehmen** (vt. 取る) のほか、**treten** (vi. 歩く) などがある。

	nehmen	treten
ich	nehme	trete
du	nimmst	trittst
er	nimmt	tritt
wir	nehmen	treten
ihr	nehmt	treten
sie	nehmen	treten

- ◇ 幹母音が a や e だからといって、すべてこのような不規則変化をするわけではない。Vgl. sagen vt. 言う、machen vt. 作る/する、lernen vt. 習う、beten vi. 祈る usw.

教科書 Übung 4 (S. 16、CD トラック 17)

1. ein bisschen は副詞句で「少し、わずかに (英語の a few)」。
2. sehr は副詞で「非常に」。
3. da は副詞 (そこにいる) だが、名詞に後置して「そのの～」のようにも使える。
7. geben は 3 格目的語 (～に) と 4 格目的語 (～を) の両方をとることができ、SVOO 的な構文をつくる。 (⇒授業第 4 回レジュメ S. 3)

連絡先など

教員のメールアドレス: token@nifty.com 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>
授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>